

平成 21 年度

北嶺中学校入学試験問題

国 語

(注意)

- 1 問題用紙が配られても、「はじめ」の合図があるまでは、中を開かないでください。
- 2 問題は全部で **5 枚** で、解答用紙は 1 枚です。「はじめ」の合図があったら、まず、ページ数を確認してからはじめてください。もし、ページがぬけていたり、印刷されていないかたりする場合は、静かに手をあげて先生に伝えてください。
- 3 答えはすべて解答用紙の指定された解答らんを書いてください。
- 4 字数が指定されている場合には、特に指示のないかぎり句読点も数えてください。
- 5 質問があったり、用事ができた場合には、だまって手をあげて先生に伝えてください。ただし、問題の考え方や、言葉の意味・読み方などについての質問には答えられませんので注意してください。
- 6 「おわり」の合図で鉛筆をおき、先生が解答用紙を集めおわるまで、静かに待っていてください。

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

魔法の一言だった。①ばかりと口を開け、陽司は石像のように固まった。瞬きさえしない。父親の顔を見つめ、微かに喉を動かした。ただけ。

「夏の甲子園、観に行ってみるか」

幸造がゆっくりと同じ意味の言葉を繰り返す。魔法は解け、陽司は身じろぎした。

「ほんとに？」

「ああ、ただし、外野席だよ」

「やったあつ！」

陽司はグラブを掴んだまま父親に飛びついた。

「お父ちゃん、ありがとう。ありがとう」

息子の身体を抱きとめ幸造は、傍に立つ和江をちらりと見上げた。

いいだろ？ と同意を求める眼つきだ。頷いていた。②本当は思いつきり顔をしかめたかったのだが、陽司の喜び方があまりに真

剣で激しいものだから、否とは言えなかった。

まったく、自分ばかりいい顔するんだから。

と、腹立たしい気持ちもあったけれど、陽司の笑顔の前には、その腹立ちも暮らしの心配も霧散してしまう。大げさでなく、身体の内側に明かりが灯ったような笑顔だった。どこからか光を受けて煌めくのではなく、それ自体が光源であるような笑顔。子どもにしかない表情だった。日々の暮らしの中で積み重なり、胸の痞えともなっていたさまざま憂いが萎んでいく。かわりに、③わたしは幸せだという想いが静かに満ちてきた。湖面に煌めく日差しのように美しい満足感だ。まさに太陽の陽、陽を司る。そんな気がした。

「行ってきなさい」

わざと、そっけなく言ってみる。

「だけど、夏休みの宿題はちゃんと済ませておくこと」

「わかっている。七月中に全部、終わらせる」

「おやおや、いつもそんなに素直だと、お母さん嬉しいけどな」

陽司は笑みをさらに広げ、和江に向かってVサインを突き出した。

バスと電車を乗り継いで約五時間で、甲子園に着く。八月の半ば、年中無休だった店を閉め、空気がまだ充分に涼やかな早朝、幸造と陽司は甲子園に向かった。和江は家で一人、テレビをつければなしにして過ごした。夏の甲子園、全国高校野球選手権大会三回戦、四試合が行われた日だった。

(中 略)

その夜、三試合を観戦したという幸造と陽司が帰宅したのは、午後十一時に近かった。その時刻より二人の顔色に、和江は驚きの声をあげてしまった。ほとんど悲鳴に近かった。日に焼けて、真っ赤なのだ。疲れなのか日光のせいなのか、白目までも充血している。

「まったく、二人とも……無茶しないでよ。暑気あたりで、熱でも出たらどうするの」

「A」の言葉どおり、翌日熱を出したのは「B」だった。三十九度近い高熱を出し、寝込んでしまったのだ。「C」は元気だった。生まれて初めて目の当たりにした甲子園の野球に興奮し、高揚していた。

「すごいんだ。本当にすごいんだ」

幾度も幾度も、繰り返す。

「何がそんなにすごいのか？」

問うてみた。野球がと陽司は答えた。

「野球の何がそんなにすごいわけ？」

「全部だよ。投げるのも、打つのも、捕るのも、全部」

「お母さんには、よくわかんないけど。でも、よかったじゃない」

陽司の顔を指さす。赤みがとれた肌は、唇の横に二つ並んでついているホクロが目立たぬほどの褐色になっていた。こんがりローストした鶏肉みたいだ。

「その日焼け。プールや海じゃなくて、甲子園で焼けたんだもの。甲子園焼けなんて、ちよっと、かっこいいじゃない」

冗談のつもりだったけれど、陽司は真顔で頷いた。それから、自分の頬を軽く叩いて笑って見せた。幸造にそっくりの笑い方だ。顔立ちがそう似通っているわけでもないのに不思議なほどそっくりだ。

「お父ちゃん、大丈夫かなあ」

笑みをひっこめた陽司の視線が天井のあたりに向けられる。

「何とか熱が引いたからね。もうすぐ起きられるよ。まったくね、真夏の日の下に何時間もいるなんて、下手したら死んじゃうわ」

「けど選手の人はずっと立ってんだよ。走ったりするんだよ」

「そりゃまあ……そうだけど」

「すごいんだ。本当にすごいんだ」

どう言葉にしたら『すごい』が伝わるのかと、陽司が焦れている。和江は微笑んでみた。何がすごいのか少しもわからないけれど、甲子園という場所が息子に与えた衝撃だけは感じとれる。

あのねと、陽司が少し胸をはった。

「 D 「

「 E 「

「 F 「

「 G 「

「 H 「

「 I 「

「あのね、ぼくが高校生になったら、今度はお父ちゃんとお母ちゃんを甲子園に連れて行ってあげるって」
和江は瞬きし、息子の目に焼けた小さな顔を見つめた。

「親孝行してくれるなら、甲子園より温泉の方がいいなあ。大人になってからでいいけど」

母親のとんちんかん言葉に首を傾げ、しばらく考え、陽司はその首を横に振った。

「ちがうよ。ぼくが甲子園に出るから、お父ちゃんとお母ちゃんがお母ちゃんが応援に来るの」

「あらまつ、それはすごい」

④自分の誤解がおかしくて、和江はぺろりと舌を出した。

(あさのあつこ『晩夏のプレイボール』)

問一 ———— ①「ばかりと口を開け、陽司は石像のように固まった。瞬きさえしない」とありますが、この時の「陽司」の気持ちを説明しなさい。

問二 ———— ②「本当は思いつき顔をしかめたかった」とありますが、それはなぜですか。説明しなさい。

問三 ———— ③「わたしは幸せだという想いが静かに満ちてきた」とありますが、「和江」は何に「幸せ」を感じていると考えられますか。答えなさい。

問四 「 A C にはあてはまる登場人物名を漢字で答えなさい。

問五 「 D I には「和江」と「陽司」の会話が入ります。それぞれの「 」にあてはまる会話を次のア～カの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア なんて？

イ まあ、そう。よかったね

ウ 甲子園に？

エ あのね、お父ちゃん、来年も連れて行ってくれるって

オ それで、ぼくも約束した

カ うん。また観に連れて行ってやるって、約束した

問六 ———— ④「自分の誤解」とありますが、「和江」は何をどう誤解したのですか。わかりやすく説明しなさい。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

元麻布で京料理を（ア）ながら、自転車の話になった。

年配の編集者が言った。僕のは十万円だ。エンジンを付けた自転車（つまりモーターサイクル）より付属物のない人力自転車のほうが価格が高いのはリーズナブルではない。だから贅沢もその程度の範囲内で①甘んじるほうがよからう。

若いカメラマンは少し照れながら、五十万円なんです、すみません。弁解を（イ）ながら自己主張に転じている。人力自転車は五十万円ぐらいになってしまふ。*アップルックスのサドルや*カンパニョールのペダルを選ぶのも贅沢のつもりではないんです。

それぞれが正論だから、どちらかいつぼうに②軍配をあげるわけにはいかない。

二人のやりとりを耳にしながら、僕の脳裡にある光景がよぎった。

荷台が大きくてタイヤの太い旧型自転車が、セピアの霧のなかをあえぎあえぎ、軋みながら疾走する。肩肘を張り、うつむいてハンドルを握った少年は、一瞬のうちに闇を切り裂き、鳥のように去っていく。僕にはその表情を見ることができない。

眼の前に座っていたのは枯れ木のような隠遁者だった。長者番付が発表される季節、ランキングに登場した老人を訪ねた。東京近郊の広大な敷地の一隅にある茶室に招きいれられた。一般に土地成金と呼ばれる人種は、ベントツ、ルイ・ヴィトンの衣裳トランク、ケネス・スミスのゴルフセットなど、さまざまなモノを、無秩序に体系なしに収集しているのがつねである。だが、老人の趣味はそうした分類から良い意味で少しだけ逸脱していた。

「あのとき、もし自転車がパンクしなかったら……」
固定資産税の天文学的な数字の桁数に翻弄された僕が溜め息をひとつおとり吐き終わると、ころあいを（ウ）て、老人はそう言った。彼の家は、少し大きめの（イ）カオクとやや広い山林を持っていたけれど、百姓には変わりなかった。旧制中学への進学者は少数だったが、彼はそのなかにいた。さらに都心の上級学校に進んで医学の道をめざしたかった。しかし、それを口に出すことは憚られた。百姓家の跡取り息子として、③生き方を選択する自由はなかったのである。

入学試験に受かったら、両親もあきらめるかもしれない。既成事実さえつくってしまえば、道が開ける。
ある朝、まだ暗いうちに、忍び足で寝床から出て自転車で跨った。私鉄の終着駅まで一時間走りつづけ、始発電車に乗る。試験に間に合うだろう。家を飛び出して懸命にペダルを漕いだ。行程半ば、十七歳の少年の夢は無残にも打ち砕かれた。

医者になつていけば……。
たぶん、土地が高騰するよりもずっと早い時期に、都市住民に身を投じて、田畑を売り払っていただろう。数十億円の資産家になるチャンスが逸したとしても、夢はかなえられていたはずだ。
老人は自慢の築山の向こうに視線を（エ）ながら、静かな口調で言った。
僕も自分自身のもうひとつの人生について考えていた。別れ道は、確かにあった。しかし、老人のようにたったひとつの選択がすべてであったとは言いが切れない。

インタヴューの帰路、図書館に寄った。確かめておきたい事柄があったから。××線が敷設された年度を調べてみた。人を疑うようであり気がすまないが、「裏を取る」のは取材後にきまって実行する習慣だった。

老人の回想は、決定的なところで事実誤認があった。当時、××線はすでにその地帯にまで路線が延長されていたのである。駅まで自転車で一時間、はありえない。電話のダイヤルに手をかけたところで、僕は思いとどまった。④訂正を求めてなにになるのだろうか。ありあまる資産を手にした彼にとって、唯一手に入らないもの。それは置いてきぼりにした少年期のくるおしいまでの向学心、人生を選択する恍惚と不安、その（ウ）彼方にひらけている未知の世界だった。いまとなつては、過去に遡って*3アドヴェンチュアの幻想に浸るほかない。挫折が、よりドラマティックでありつづけるためには、古い自転車は予告なしに突然パンクしなければならなかった。

十萬円の自転車にも五十萬円の自転車にも、それぞれ小さなこだわりがあることは認めよう。だが、決してパンクしない自転車を手に入れてしまった僕たちには、クライマックスを夢みることさえ禁じられている。
幸福なのか退屈なのか……。

（猪瀬直樹『自転車パンクした幸せな日』）

【語注】 *1 *2ブルックス・カンパニョール…ともに自転車部品のメーカー。

*3アドヴェンチュア…アドベンチャー。

問一 ————（あ）（う）について、カタカナは漢字に改め、漢字は読みをカタカナで答えなさい。

問二 （ア）（エ）に入る、最もふさわしい語をそれぞれ次の中から選び、（例）にならつて、適切な形に直して答えなさい。

みはからう	よそおう	つつく	泳がす
-------	------	-----	-----

（例）「書く」↓「書い」て

問三 この文章には次の一文が抜けています。その一文が入る直前の文の、初めと終わりの五字を抜き出して答えなさい。

思いもかけずタイヤがパンクしたのである。

問四 ——— ①「甘んじる」・②「軍配をあげる」の意味として最もふさわしいものを、それぞれ次にあげたア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ①「甘んじる」
- ア 遠慮せずに受けとる
 - イ 仕方なく受け入れる
 - ウ とても満足だと思ふ
 - エ 甘えた声で反発する

- ②「軍配をあげる」
- ア 否定をする
 - イ 味方をする
 - ウ 勝者とする
 - エ 判定をする

問五 ——— ③「生き方を選択する自由はなかった」と同じ内容を言いかえた部分を、本文中から二十字以内で抜き出して答えなさい。
問六 ——— ④「訂正を求めてなにになるのだろうか。」とありますが、「僕」がどのように考えたのはなぜですか。説明しなさい。
問七 この文章のタイトルの『自転車がパンクした幸せな日』です。「僕」はなぜ「老人」の夢が打ち砕かれた日を「幸せな」と言っているのですか。その理由として最もふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 医者にならなかつたかわりに、長者番付に載るくらい億万長者になれたから。
- イ 医者にならなかつたおかげで、いつまでも少年の日の夢を持ち続けられるから。
- ウ 医者にならなかつたおかげで、細々とはあつても長生きできているのだから。
- エ 医者にならなかつたかわりに、あれこれ迷うこともなく生きられたと思うから。

③ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

二〇〇七年三月九日、米ブッシュ大統領とブラジルのダシルバ大統領が会談しました。ブラジルはサトウキビからバイオエタノールを作って、それで自動車を走らせる。アメリカはトウモロコシからやはりバイオエタノールを作って、⑦それで自動車を走らせる。それで、今自動車で使っているガソリンを二〇%削減しようということ合意しました。

そしてアメリカでは今まで食料として使っていたトウモロコシやオレンジ、コムギの畑を燃料用のトウモロコシ畑に切り替えました。日本では例えば九州全域に当たる広大な面積が、バイオエタノール用のトウモロコシ畑に変わったのです。その影響は直ちに現れて、小麦粉の不足で讃岐うどんの値段が上がり、続いてオレンジジュース、マヨネーズと、二〇〇七年の春の異変が起こったのです。

この勢いはどんどん増すでしょう。これを支援して進めているのが環境団体で、①アメリカでは、石油業界も農業関係者も賛成しています。

環境団体がバイオエタノールを支持するのは、石油は自動車の燃料に使うと二酸化炭素が出て地球の温暖化につながるけれども、トウモロコシやサトウキビは、太陽の光でできるので、そこから作ったエタノールを燃料にして自動車を走らせても二酸化炭素は出ないと考えているからです。⑧それを「カーボン・ニュートラル」と呼び、食料から自動車燃料への転換を推し進めているのです。

(a)、(b)には大きな錯覚があります。

まず、これまで人類の歴史上、「食べ物燃料にする」時代はありませんでした。たとえば、みなさんが、「今日はどのくらいご飯を食べるかわからないけど、とりあえずお米を五合炊こう」と考えて五合炊いたとします。実際は一合分しか食べなかつたとしても、「残ったお米をストーブにくべよう」といつて暖をとるようなことは、かつてありませんでしたし、今でもそんなことはありません。これはヨーロッパでも同じです。お金持ちがパンをゴツゴツ買占めて、二つか三つ食べて、お腹がいっぱいになったとします。その日は寒いからといって、残りのパンを暖炉にくべるといふこともありませんでした。人間にとって、食料を大切に扱うことは基本的な倫理だったのでした。

いま自動車燃料にするというサトウキビにしても、トウモロコシにしても、食べられますし、おいしいものです。それをエタノールにして自動車の燃料にするということは、②コムギをパンにし、暖炉にくべることとまったく同じです。このことが「地球温暖化」という、人々が心配していることとからめて一気に推し進められるのですから、奇妙な世界になったものなのです。

もう一つは、世界には飢えた人がいるということです。地球上には六五億人くらいの人々がいますが、穀類の生産高は年間二〇億トンですから、一人当たりほぼ三〇〇キログラム、この量は、人間が飢えないで生きていける量です。(a)、現在は*2グローバルゼーションが進んでいるので、食料は十分にあるのですが、平等には行き渡らずにまずお金持ちにいきます。その結果、貧しい国の約八億人の人々が飢えています。中でも悲惨なのは、一五〇〇万人の人たち——一五〇〇人ではなく、その多くは子どもと言われる一五〇〇万人が毎年、餓死しているのです。食料があるのに貧しいので餓死するのです。

かつて、食べ物はお金で多少の売り買いはするにしても、基本的には村の人たちが分けあって食べていました。ある人が通常の三

倍も四倍も食べ物を買って、食べられない分を捨て、同じ村の隣の人が餓死するということはあり得なかったのですが、現在はそれと似たことが起こっています。

続いて③第三の問題点を指摘したいと思います。

現在、飢えている人が約八億人、自動車を運転している人が約八億人います。トウモロコシを作ったときに、そのトウモロコシを飢えた人に渡すか、運転している人に渡すかというとき、本来であれば飢えている人に渡すのが当然なのですが、実際は全て運転している人に行くでしょう。飢えている人がなぜ飢えているかというと、お金がないからです。それに対して、自動車を運転している人はお金を持っています。(b)、どんなに飢えた人がいても、食料はお金を持っているドライバーが買い、自動車が食べることになるのです。

ブッシュ大統領が提案したバイオエタノールの推進は、農業団体にとってみれば、これまでトウモロコシを作っている価格が不安定だったので、これからは、ガソリンの値段が上がればガソリン用にまわせばいいですし、食料の値段が上がってくれば食料として出荷するということが、大変都合がいいのです。

現在、ガソリンの値段は一五〇円を突破しています。そうになると、食料は燃料に流れます。燃料が倍になったら食料が燃料に流れ、その食料を取り返そうとすると、それ以上の値段を払わなければなりません。さらに悪いことには、自動車の燃料を買う人はお金持ちなので、少しぐらい食料の値段が上がっても基本的には購入します。(c)、ますます貧しい人が食料を買えなくなるのです。

(b)、バイオエタノールが環境にいいかということ、明確にNO!と言えます。Aも怖いと言えは怖いのですが、Bは直接的に人の命を奪うからです。

(武田邦彦の文章より)

【語注】*1バイオエタノール：サトウキビやトウモロコシ、廃木材を原料として作られる自動車の燃料。

*2グローバルバリエーション：国境にとられず世界規模で貿易が行われること。

問一 (a) (c) に入る、最もふさわしい語句の組み合わせを、次の中から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号の () には同じ言葉が入るものとします。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-----|----|---|-----|----|-----|-----|
| ア | a | です | から | b | すると | c | しかし | |
| イ | a | しかし | | b | です | から | c | すると |
| ウ | a | です | から | b | しかし | c | すると | |
| エ | a | しかし | | b | すると | c | です | から |

問二 ⑦・①「それ」の指し示すものは何ですか。それぞれわかりやすく答えなさい。

問三 ①「アメリカでは、石油業界も農業関係者も賛成しています」とありますが、農業関係者が賛成するのはなぜですか。説明しなさい。

問四 ②「コムギをパンにし、暖炉にくべる」と「とまったく同じです」とありますが、何とどういふ点で同じと言えるのですか。わかりやすく説明しなさい。

問五 ③「第三の問題点」の説明として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 食料を燃料とすることは歴史の上で例のないことであり、基本的な倫理に反しているということ。
- イ 世界中の人々が飢えずにすむほど食料があるのに、貧しくて餓死してしまう人がいるということ。
- ウ 自分が食べきれなかったパンやごはんを、ストーブや暖炉にくべて暖を取る人がいるということ。
- エ 食料を燃料として使うと、お金のない飢えた人はますます飢餓にさらされてしまうということ。

問六 A・Bに入る、最もふさわしい言葉を、本文から探して書き入れなさい。ただしAは三字、Bは二字とします。